

洛北古寺偶成

清和古刹翠嵐時
信歩林間鳥嘯追
借問鴛鴦何処住
爽風誘我渡蓮池

荒井 みどり

洛北古寺偶成

清和の古刹 翠嵐の時
歩に信す林間 鳥嘯を追う
借問す鴛鴦 何れの処にか住まん
爽風 我を誘いて 蓮池を渡る

初夏吟行龍安寺

雨余禪院綠陰盈
庭上砂紋廻石清
漫坐回廊扨憂患
吾唯知足一身輕

綠萍 池崎 みどり

初夏 龍安寺に吟行す

雨余の禪院 綠陰盈ち
庭上の砂紋 石を廻りて清し
漫に回廊に坐り憂患を扨えば
吾唯足るを知る 一身輕し

蔵六庵

凡城風軟竹成林
小径苔生皓月臨
浄室迎賓茶可煮
吾唯知足意何深

蔵六庵

勝本 公子

凡城風軟くして竹林を成し
小径苔生じて皓月臨む
浄室賓を迎へて茶煮るべし
吾唯だ足を知る意何ぞ深きか

雨余龍安寺

含 雨 青 松 映 日 滋
散 香 紅 藕 引 風 吹
鏡 容 池 上 吟 声 湿
衣 笠 山 前 歩 履 遅

雨余の龍安寺

永陵 佐藤 峰雄

雨を含む 青松 日に映じて滋く
香を散ず 紅藕 風を引いて吹く
鏡容池上 吟声湿い
衣笠山前 歩履遅し

★鏡容池・・龍安寺内の池

★衣笠山・・龍安寺の借景

龍安寺石庭

古刹龍安未得安
石庭妙味欲誰干
依稀默坐渺何處
心底唯知逃世難

國峰 中西 倭

龍安寺石庭

古刹龍安未だ安ぎを得ず
石庭の妙味誰をか干せんと欲す
依稀默坐す渺として何れの処ぞ
心底唯知る世を逃ること難しと

近漢連吟行会

近漢連盟方丈前

禅僧案内説明円

石庭名勝龍安寺

五月吟行新緑鮮

橋本 雲外

近漢連吟行会

近漢連盟方丈の前

禅僧の案内説明円なり

石庭名勝龍安寺

五月吟行新緑鮮やか

遊龍安寺

莊嚴仏閣欣然到
石磴無塵緑樹繁
揺漾荷花風籟爽
衆人簇簇暗消魂

龍安寺に遊ぶ

広瀬 幸子

莊嚴たる仏閣 欣然として到れば
石磴 塵なく 緑樹繁し
揺漾たる荷花 風籟爽やかなれど
衆人 簇簇 暗かに消魂す

★簇簇Ⅱむらがり、あつまるさま

龍安寺吟行

緑樹竹籬風颯然

鏡容池上泛紅蓮

伴朋茶室囲炉坐

唯足吾知断俗縁

藤居 岑顥

龍安寺吟行

緑樹 竹籬 風颯然

鏡容池上 紅蓮泛ぶ

朋を茶室に伴い 炉を囲んで坐す

唯足るを吾知り 俗縁を断つ

龍安寺吟行

池頭紅藕氣如仙
空翠龍安最上禪
避暑林亭人笑語
苔庭日暮聳吟肩

龍安寺吟行

藤田 彩月

池頭の紅藕 氣仙の如く
空翠の龍安 最上の禪
避暑の林亭 人笑語し
苔庭 日暮 吟肩聳ゆ

詠龍安寺鏡容池

騷人趁約龍安寺
天氣清明五月秋
紅白蓮華池一面
昔時貴客泛蘭舟

湖舟 本田裕志

龍安寺鏡容池を詠ず

騷人約を趁う 龍安寺
天氣 清明なれど 五月の秋
紅白の蓮華 池一面
昔時の貴客 蘭舟を泛べたり

★五月秋..五月であるがさむい日

訪龍安寺

雨余香界爽風周
新樹清陰綠欲流
閑対石庭思歲月
吾唯知足意悠悠

紫暹 森下 恭行

龍安寺を訪ぬ

雨余の香界 爽風周り
新樹の清陰 緑流れんと欲す
閑かに石庭に對し 歲月を思ふ
吾唯足を知り 意悠悠たり